

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	13-021	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Consumption of alcohol and risk of cancer among men: a 30 year cohort study in Lithuania. 男性における飲酒と癌のリスク：リトアニアの30年追跡コホート研究より		
執筆者		
Everatt R, Tamosiunas A, Virviciute D, Kuzmickiene I, Reklaitiene R.		
掲載誌		
Eur J Epidemiol. 2013 May;28(5):383-92. doi: 10.1007/s10654-013-9814-y.		
キーワード		PMID
飲酒、癌発症、コホート研究		23700027
要 旨		
<p>目的： いくつかの研究がリトアニア成人において大量飲酒の危険性を指摘してきた。我々は今回リトアニア一般住民男性においてベースライン時の飲酒と癌発症との関連を検討することを目的とした。</p> <p>方法： 1972-1974年および1976-1980年にベースライン調査が行われたKRISおよびMIHDPSの2つのコホートを用いて、合計7,150人を分析対象とした。各対象者について質問票を用いて飲酒量を評価し、Cox比例ハザードモデルを用いて、喫煙、教育、BMIを調整し、癌発症に対するハザード比(HR)および95%信頼区間(95%CI)を算出した。</p> <p>結果： 30年の追跡期間中、1,698人が癌を発症した。軽度飲酒(1週間当たり0.1-10.0gのアルコール飲酒)と比較して、週140.1g以上の飲酒は、全癌発症(HR 1.36, 95%CI 1.11-1.65)、頭部癌発症(HR 2.79, 95%CI 1.3-6.34)、飲酒関連癌発症(口腔内、咽頭、喉頭、食道、大腸、および肝臓)(HR 1.88, 95%CI 1.25-2.85)と有意に関連していた。年に数回の飲酒と比較して、週に2-7回の飲酒は全癌発症(HR 1.45, 95%CI 1.16-1.83)、および飲酒関連癌(HR 1.35, 95%CI 1.04-1.76)と有意に関連していた。1飲酒機会あたりの飲酒量と癌発症とは有意な関連を認めなかった。全癌の13%、頭部癌の35%、飲酒関連癌の22%は、飲酒に起因するものであった。</p> <p>結論： リトアニア一般男性において、飲酒は全癌発症、頭部癌発症、飲酒関連癌発症と関連していた。</p>		